



▲目上のメス・サラが年下の新入りオオカミ・ハチの挨拶を受ける
(撮影：吉岡幸作さんー動物園フォトコンテスト入賞作品)

さて、イヌの祖先を家畜化しやすかった理由は幾つかある。イヌは人が扱うのに適当なサイズであったこと、また人もイヌの先祖も同じ食物（肉）を求め狩りをしていたという密接な関係などがあげられよう。しかし、何よりも群で生きるイヌの特性、すなわち駆引きのないストレートな仲間関係と秩序を重んじるイヌの性質が、人との関係を保つためには欠かせない重要な要素であったはずである。

かつてオオカミの子育ての中にこうしたイヌの特性をかいま見た。オオカミは哺乳類の中ではオスも育児に参加する珍しい動物であるが、子がえさをねだり口元にじゃれ付くと親父オオカミは一度食べたものを吐き出し子に与えたり、母親は何か不安を感じると子をくわえ巣の中に隠すなど、愛情たっぷりの子育てに感心させられた。

その子育ての中に厳しい掟を教え込むシーンを目撃したことがあった。子が成長したある日、親父がえさを食べているところへ子どもたちと母親がえさをとろうとして近寄って来た時のことであつた。前日まで仲良く食べさせてくれた親父が一転、低く恐ろしい唸り声を出し始めたのだ。しかし、まだオオカミ社会の掟を知らなかった子オオカミたちは、空腹のあまりえさに手を出したのであつた。その瞬間、親父の逆鱗に触れたのであつた。親父の攻撃とすさまじいなり声、そして悲鳴とでオオカミの寝小屋は一大パニック。子オオカミたちは這這の体で部屋の隅へと逃げ出したのである。無論、母オオカミは騒ぎの渦の中にはいなかった。

オオカミ社会の掟を親父は自然に湧き出た怒り、体罰で教えたのであろう。群で生きるためには序列、順位は無視できないのである。子オオカミたちはその後、からだで覚えたあの痛さと恐怖を決して忘れることはなかったはずである。イヌが人に馴れ一定の関係を保てるのは、この社会性・順位性を大事にする動物だからであらう。その原点、大事な部分は愛情と厳しさの両面を持つ親子関係にあると言っても過言ではない。ちなみに生後2～3ヶ月の社会化期間をうまく受けることのできなかった子犬は人との関係、馴化がうまくいかないと言われる。戌年の今年、人の群すなわち社会で生きる大切なものをオオカミの生き様を見ながら学んでみたい。

＝ 干支の話 ＝

オオカミから学びたい

大森山動物園長 小松 守

今年の干支は戌、動物の意味は犬である。干支の字はご存知のように動物に見立てた十二支（子・丑・寅・卯…）で、戌は十一番目の動物である。そのイヌの先祖はオオカミや野生イヌのディンゴなどと言われている。人は多くの動物を家畜化してきたが、イヌの家畜化は最も古く1万年から3万年もの昔にとされ、イヌは人と最も気持ちが通じ合うベストフレンドかもしれない。

HOT INFORMATION ほっといんふおめーしょん

1 チンパンジーのココ来園 子どもをあやすチンパンジーのココ。ココは繁殖を目的に東京都多摩動物公園から妊娠した状態で10月12日に来園。その後11月7日に無事に元気なオスの赤ちゃんを出産し、赤ちゃんは順調に成長中。このまま順調に育てば、大森山動物園では母親が育てる初めての例になるかもしれません。

2 チンパンジーのジェーン再び！ 動物園で一番年上の「ジェーン」（38歳）が2年連続でボンタとの間にオスの赤ちゃんを出産。しかしジェーンは母乳の出が悪く赤ちゃんが衰弱してきたため、誕生6日目に人工哺育に切り替え、今は元気を取り戻し力いっぱい哺乳ビンに吸いついている。（詳しくは動物病院からを参照）

3 シンリンオオカミ 12月5日、富山市仲間入り ファミリーパークから繁殖を目的に2頭のオオカミが仲間入り。既に飼

➡ 育てている3頭のオオカミと群れづくりができるように現在訓練中。

4 秋まつり 10月9、10日に開「動物ふれあいカーニバル」 催した秋まつり。2日間で10,872人の来園者が訪れ、動物パレードやクイズ大会など様々なイベントを開催し終日来園者で賑わった。

5 訃報 グラントシマウマ コタロウ (オス)享年8歳(1997.7.16生まれ)
5年前に繁殖を目的として広島市安佐動物園から来園し、3頭の子供をもうけました。11月8日、突然の嵐、雷と暴風雨に驚きフェンスに激突、それが原因で翌日亡くなりました。

6 訃報 シセンレッサーパンダ ハナ (メス)享年15歳(1990.6.29生まれ)
8年前、秋田に最初に来たレッサーパンダがハナでした。愛くるしい顔で来園者を魅了してきましたが、11月10日に老衰のため亡くなりました。